

研修員's VOICE

Vol. 39

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。

出典：外務省HP



JICA沖縄での閉講式（左がオーフさん、右はJICA沖縄倉科所長）

氏名：Ms. POBSUK Pananya（オーフさん）

国名：タイ

コース名：農産物を輸出するための実践的植物検疫技術
（ミバエ類殺虫技術）コース

研修期間：2022年7月4日～2022年11月29日

タイってどんな国？

東南アジア中央に位置するタイは経済発展が著しく、中でも政治、経済、文化、食の中心地である首都バンコクは、古きよき時代の魅力と現代の利便性を持つ大都市です。仏教国のタイでは街中にも多くの仏閣が見られ、エメラルド色の仏像が祀られるワット・プラケオは重要な寺院の一つです。

タイでは1年を通して様々な果物が生産されますが、気候変動の影響や病害虫による生産量の減少が大きな課題です。GAP(適正農業管理)の適用や有機果実、ハイテク技術による保存等、果実の品質や価値を高める取り組みや、輸出検疫のためのガイドライン、科学的データ、先進的な研究技術が必要です。



超高層ビルが立ち並ぶバンコク中心部



果実を使った実習

研修に参加した目的は？

自国では農業省の農業研究員として、輸出農作物の検疫病害虫の研究や、梱包作業所や輸出業者向けの病害虫の診断やモニタリング、検出技術の開発等を行っています。

野菜や果実を輸出する際に最も重要となるミバエに対する植物検疫技術、とりわけ蒸熱処理や温湯処理、低温処理といった果実障害試験の知識や技術向上を目指し研修に参加しました。那覇植物防疫事務所の講師陣はミバエに対する多くの専門知識を有しており、研修で学んだことは、自国での今後の研究開発に応用できると期待しています。

研修に参加して感じたことは？

今回はコロナ禍ということもあり、約1か月の遠隔研修と3か月半の来日研修となりました。遠隔で事前に学び、内容を理解してから来日後の研修に臨むことができたのは、とても良かったです。対面での研修は遠隔には無い実践を伴い、より理解を深めることができるとともに、各国から参加した研修員とのネットワークを築くというメリットもあり、今回の研修に参加できたことを嬉しく思っています。

美しい観光スポットがある沖縄は、タイでも人気があります。独特の文化や歴史、親しみやすい人々がいる沖縄での生活は、人生の中でも最高の時間となりました。



各国から参加した研修員たち